〔個別研究〕

「栄養・食生活」に関与する専門職支援に関する研究
「栄養・食生活」の支援に関する研究－専門職の対応について－

母子保健研究部　堤ちはる
客員研究員　高野 陽
嘱託研究員　三橋扶佐子（日本歯科大学生命歯学部共同利用研究センター）

要　約

保護者が食を通じて子どもへの理解を深めることから子育て不安を軽減し、家庭の養育力向上につなげるためには、子どもと保護者を支える専門職の関わりが重要となる。そこで、保護者から栄養・食生活に関して回答に窮するような質問を受けたり、悩みを相談されたりした場合の専門職の対応を支援するために質問紙調査を実施した。調査票は 1826 枚回収され、そのうち 1801 枚が有効票であった（有効回答率 98.6%）。得られた主な結果は以下のとおりである。①栄養・食生活に関して、即答できない質問を受けた経験のある者の割合は、保育士 51.2%、調理師・調理員 48.5%に対して、管理栄養士・栄養士は保育所勤務 65.9%、行政勤務 88.4%と高かった。これは栄養・食生活の専門職であるがゆえに完璧な回答を求めすぎること、普段の子どもの様子を把握しておらず、その子どもに合った回答であるか自信がないことが理由として考えられる。②即答できない質問の回答を調べる情報源として、管理栄養士・栄養士は「専門書」、「公的機関、企業などのネットのサイト」をそれぞれ７、８割の人が利用していた。一方、保育士はそれらの利用は４、５割にとどまり、「職場内の人」が７割と多かった。③質問に対応するためにあったら望ましいと思うものは、全ての職種で「専門家による回答のデータベース」が一番多かった。保育士、調理師・調理員はインターネットの利用が少ないことから、紙媒体のＱ＆Ａ集等を作成すると、現場で活用しやすいと思われる。④回答に困った質問内容は、離乳食、特定の食品・食物の効用、食物アレルギー、親の食生活の乱れ・食への無理解、偏食、少食、肥満児の食事、卒乳・断乳・母乳へのこだわり、咀嚼・嚥下、体調不良児の食事、食育、栄養の基礎知識、子どもが食に無関心、生活リズム、その他の 15 項目に分類された。

食の情報が氾濫する中で、管理栄養士・栄養士や保育士ら保護者と子どもの食を支援する人たちは、断片的な食の情報に惑わされずに、食事を摂ることが栄養補給にとどまらない食育そのものであることを、一般の人たちに示していくことが重要であると考える。

キーワード：栄養・食生活、子育て不安、保育士、食の情報、食育

A study on support for "nutrition and eating habits"
－in terms of professionals' response－

Chiharu TSUTSUMI, Akira TAKANO, Fusako MITSUHASHI

Abstract : Parents who are rearing children have lots of anxiety about their children's diet. Being advised on diet by professionals who support parents and children helps parents to understand their children better, and both reduces the anxiety about child-rearing and improves its quality. Therefore, we conducted a survey about the kind of support that professionals need when they receive difficult questions which they can't answer immediately from the worried parents. 1,826 questionnaires were collected, of which 1,801 were valid (98.6%).

The main results are as follows: 1. the ratio of professionals who received a difficult question that they could not answer immediately was 51.2% for nursery teachers and 48.5% for cooks and kitchen staff. By contrast, the ratio was 65.9% for dietitians working in nursery, and 88.4% for dietitians working in administration parts of public bodies. We surmised the reasons why the ratio for dietitians was higher are that they want to answer precisely as nutritional experts and that they aren't confident with their advice because of their lack of direct contact with children in a working environment. 2. When trying to give an answer to difficult questions, 70% to 80% of dietitians use technical books and websites of public and private bodies. On the other hand, only 40% to 50% of nursery teachers use such information resources. Instead, 70% of them use personal networks in their workplaces as a resource. 3. All the professionals desire experts to create a Q&A database system. 4. A Q&A casebook may be especially useful for nursery teachers, cooks and kitchen staff in their workplaces because they do not seem to make much use of the internet. 5. The difficult questions most commonly received are categorized into following 15 items: baby food; the effects of special foods and products; food allergies; parents' irregular eating habits and lack of knowledge about diet; unbalanced diet; small appetite; diet for obese children; how and when to stop breastfeeding; chewing / swallowing; diet for children who are unhealthy, unwell or ill; dietary education; basic knowledge about nutrition; a child's indifference to eating; life rhythm; others.

It is important for professionals such as dietitians and nursery teachers who give advice on diet to suggest that parents should not get confused by fragmentary information on food under a flood of the information, and that correct dieting is not only getting enough nutrition but also eating well.

Keywords : Nutrition and eating habits, Child-rearing anxiety, Nursery teacher, Information on food, Dietary education

Ⅰ．はじめに

人間にとって食べることは成長・発達や心身の健康の保持・増進に欠かせないことであり、「何を、どのように（調理）して、どの位の量、どのような環境で食べるのか」を考えることは極めて重要である。しかし、自らが栄養・食生活の知識・技術を持ち合わせていない場合には、それらの疑問を保健所や保健センター等の行政の管理栄養士・栄養士に尋ねたり、子どもが保育園児である場合には、保育所の保育士、管理栄養士・栄養士らの専門職に質問することもあると思われる。それらの質問に彼らが的確に回答することは、栄養・食生活への不安を軽減し、心豊かに健全な食生活を人々が送る一助となる。

しかし、専門職であっても、寄せられる質問は即答できるものばかりであるとは限らない。その場合、専門職がどのように対応しているのか、また、どのような質問に対して回答に困っているのか、これまで明らかにされていない。そこで、本研究は人々が食生活と健康の良好な関係を築くために、回答に困る質問を受けたり、悩みを相談されたりした場合の専門職の対応支援方策について検討することを目的とした。

Ⅱ．研究方法

1．調査方法および内容

調査対象者は、福島県、茨木健、新潟県、長野県、山梨県、東京都、神奈川県、静岡県、愛知県、大阪府、岐阜県、島根県、福岡県において、乳幼児の栄養・食生活に関する研修会に参加した1826名である。参加者には、会場で調査票を配布し、回答後にその場で回収した。調査時期は平成21年9月～22年3月である。

調査票は、回答者の属性、栄養・食生活に関して即答できない質問を受けた経験の有無、即答できない回答を調べるための情報源、質問に対応するためにあれば望ましいもの、回答に困った質問から構成されている。結果は、職種別と所属別に分類して集計した。集計は SPSS（Ver. 17.0）を用いた。

2．倫理的配慮

本研究は、日本子ども家庭総合研究所の倫理審査委員会より承認を得て実施した。調査依頼の文書にて研究の趣旨を提示し、調査への協力は任意、無記名であること、対象者に不利益を被らないことを説明した。データは研究目的以外に使用しないことを調査依頼文書に示し、質問紙の回答をもって承諾を得たものとした。

Ⅲ．研究結果

1．回収状況と回答者の属性

調査票は1826枚回収され、そのうち1801枚が有効票であった（有効回答率：98.6%）。

調査対象者の職種別年齢区分を表1に示す。年齢区分は多い順に50歳代（28.5%）、40歳代（25.2%）、30歳代（23.2%）、20歳代（21.0%）であった。各年代に多い職種の上位3つは、保育士、管理栄養士・栄養士、調理師・調理員であった。最も多いのは20歳代では管理栄養士・栄養士であったが、30歳代～60歳代では保育士であった。

調査対象者の所属と職種を表2に示す。多いのは保育所（67.7%）、行政（14.8%）であり、企業、医療施設、小・中・高等学校、幼稚園は6％以下と少なかった。また、保育所の保育士、管理栄養士・栄養士、調理師・調理員、および、行政の管理栄養士・栄養士は、それぞれ200名以上であるのに対して、他職種は25名以下と少なかった。

そこで、以降の分析は、保育所の保育士、管理栄養士・栄養士、調理師・調理員と行政の管理栄養士・栄養士について行うこととした。

2．即答できない質問を受けた経験の有無

栄養・食生活に関して、即答できない質問を受けた経験の有無を表3に示す。保育所の保育士の51.2%、管理栄養士・栄養士の65.9%、調理師・調理員の48.5%、行政の管理栄養士・栄養士の88.4%は即答できない質問を受けた経験があった。

3．回答を調べるための情報源

栄養・食生活に関して、即答できない質問を受けた場合の回答を調べるための情報源を表4に示す。保育所の保育士では多い順に「職場内の人」（71.1%）、「専門書」（51.8%）、「公的機関、企業などネットのサイト」（36.7%）、「職場以外の専門家」（16.6%）、「友人・知人」（14.7%）であった。管理栄養士・栄養士では、「専門書」（80.3%）、「公的機関、企業などのネットのサイト」（66.4%）、「職場内」（36.3%）、「職場以外の専門職」（22.0%）、「友人・知人」（18.8%）であった。調理師・調理員では、「専門書」（51.5%）、「職場内」（43.3%）、「公的機関、企業などのネットのサイト」（40.7%）、「健康情報雑誌」（18.6%）、「職場以外の専門職」（18.0%）であった。

一方、行政の管理栄養士・栄養士は、「公的機関、企業などのネットのサイト」（78.7%）、「専門書」（78.3%）、「職場内」（53.6%）、「健康情報雑誌」（31.4%）、「職場以外の専門職」（30.4%）であった。

4．回答を調べるための情報源

栄養・食生活に関する質問に対応するために、あったら望ましいと思うものを表5に示す。保育所では「専門家による回答のデータベース」を保育士（49.7%）、管理栄養士・栄養士（49.3%）、調理師・調理員（42.8%）と、

一番多く挙げていた。二番目に多く挙げていたのは「研修会などの専門家の講義」であり、保育士（35.8%）、管理栄養士・栄養士（36.3%）、調理師・調理員（33.5%）であった。三番目以降多かったのは、保育士と調理師・調理員は「保健センター・保健所などの情報・資料」（32.2%、26.8%）、「専門書」（20.4%、18.0%）、「仲間と相談し合えるネットワーク」（13.9%、17.0%）であった。一方、管理栄養士・栄養士は三番目以降に「仲間と相談し合えるネットワーク」（26.0%）、「保健センター・保健所などの情報・資料」（24.7%）、「専門書」（21.5%）を挙げていた。

行政の管理栄養士・栄養士は、保育所の管理栄養士・栄養士と同じ項目を上位５つに挙げていたが、「専門家による回答のデータベース」を選んだ割合が保育所の49.3%に比べて77.3%と高かった。

５．回答に困った質問内容

栄養・食生活に関して、回答に困った質問内容を表６に示す。質問内容を記入した人数は、保育所の保育士109名、管理栄養士・栄養士26名、調理師・調理員18名、行政の管理栄養士・栄養士59名であった。この人数は回答に困った質問を受けた人数に対して、それぞれ26.4%、17.7%、19.1%、32.2%であった。

質問内容は、離乳食(37件)、特定の食品・食物の効用（36件）、食物アレルギー（32件）、親の食生活の乱れ、食への無理解（27件）、偏食（25件）、少食（17件）、肥満児の食事（15件）、卒乳、断乳、母乳へのこだわり（14件）、咀嚼・嚥下（12件）、体調不良児の食事（10件）、食育（６件）、栄養の基礎知識（５件）、子どもが食に無関心（５件）、生活リズム（４件）、その他（５件）に分類された。以下にそれぞれの具体的な内容を記す。

① 離乳食

保育所の保育士、管理栄養士・栄養士、調理師・調理員、ならびに行政の管理栄養士・栄養士には、「離乳食の進め方（開始・完了時期、固さ、形状、量、生もの、食材の扱い等）がわからない」が多かった。それ以外は、保育士には「離乳食と母乳やミルクの割合」、「フォローアップミルクを使う方がよいか」、「離乳食を作っても食べない場合の対処法」、「離乳完了が遅い（２歳過ぎても離乳食）子どもの食事」、「離乳期のおやつの与え方」、「離乳期の鉄、水分の補給」、「ベビーフードの利用（長所、短所の説明）」があった。

② 特定の食品・食物の効用

行政の管理栄養士・栄養士に「○○(ヨーグルト、納豆、オリーブ油、牛乳等)は体に良いか」、「サプリメントの効用、食べ物や医薬品との組み合わせ」、「△△（肥満、冷え性、肉離れ等）に効く食べ物は何か」が多かった。

③ 食物アレルギー

保育士、調理師・調理員に「除去食の具体的メニュー、代替食品」、「除去食による成長への影響」、「子どものアレルギー予防に効く妊娠期の食事」が多かった。

④ 親の食生活の乱れ、食への無理解

保育士に対して「調理が苦手、市販品の利用が多い、料理する気がない親への対処法」、「親が自分と子どもの食に無関心。子どもの好物ばかり与える場合の対処法」、「特定の食品（牛乳、果物等）を医師の診断なしに除去を要求する親への対処法」、「保育所の給食（量、食べさせ方等）に文句を言う親への対処法」が多かった。その他に「特殊な食材の調理・加工方法」もあったが、これは保育所と行政の管理栄養士・栄養士に多かった。

⑤ 偏食

保育士に「偏食（野菜、牛乳、肉、魚等を食べない）の治し方」が多かった。それ以外に保育士には「苦手なものを食べさせる必要があるのか」、「苦手なものを食べさせようと励ますとプレッシャーがかかってよくないのでは」があった。

⑥ 少食

保育士と行政の管理栄養士・栄養士には「少食、食べないときの食べさせ方」があった。また、保育士には、「朝食をあまり食べない場合の対処法」、「少食で食事に時間がかかる場合の対処法」があった。

⑦ 肥満児の食事

保育所の保育士、管理栄養士・栄養士、調理師・調理員に「肥満児の食事の摂り方」があった。それ以外にも保育士には「食欲旺盛だが、太らないための食事量の上限」、「少食なのに太い理由」があった。

⑧ 卒乳、断乳、母乳へのこだわり

保育士に「断乳方法、タイミング、時期等」、「母乳を与える期間」、「卒乳のスムーズな迎え方」、「母乳にこだわり離乳食が開始できない場合の対処法」があった。

⑨ 咀嚼・嚥下

保育所の保育士と管理栄養士・栄養士に「よく噛んで飲み込むことを身につけさせる方法」が多かった。それ以外にも、保育士には「吸い食べなどの困った食べ方の直し方」、「乳児の歯磨きの方法」等があった。

⑩ 体調不良児の食事

保育所の保育士、管理栄養士・栄養士、行政の管理栄養士・栄養士に「下痢、便秘の時の食事」について、また、数は少ないが「特殊な病気（低身長等）の子どもの食事」があった。保育士には「夏バテの時の食事」もあった。

⑪ 食育

保育士に「食事のマナー（箸の使い方、挨拶等）の子どもへの教え方がわからない」、「食育とは何かの説明」があった。

⑫ 栄養の基礎知識

保育所の保育士、調理師・調理員に「栄養、食品の基礎事項（五大栄養素の説明等）」があった。

⑬ 子どもが食に無関心

保育所の保育士、管理栄養士・栄養士、行政の管理栄

養士・栄養士には、「食に無関心で食べる意欲が薄い子どもへの対処法」があった。

⑭ 生活リズム

保育所の保育士、調理師・調理員、行政の管理栄養士・栄養士には、「生活リズムの乱れ（親子共に乱れている、大人の夜型に子どもが巻き込まれている等）の対処法」があった。

⑮ その他

保育所の保育士、行政の管理栄養士・栄養士に「障害児の食事介助法」があった。行政の管理栄養士・栄養士には、「食品添加物の害について」、「食品に含まれる酵素量」、「妊娠糖尿病」があった。

Ⅲ．考察

食生活は全てのライフステージにおいて重要であるが、特に乳幼児においては健やかな発育・発達、味覚、食嗜好、食習慣の基礎形成、さらには将来の生活習慣病発症にまで影響する。そこで生涯にわたる健康の保持・増進のために長期的な視点に立脚した栄養管理と食育が必要である。そのために、乳幼児には適切な食事を好ましい環境のもとで提供することが求められる。

ところが子育て時期には、乳幼児の保護者の食に関する不安や心配は多く[1]、身近に相談する人がいなかったり、支援の場がなかったりすると、子どもの食生活に関する悩み等が解決できずに、子育て不安の一因となることもある。保護者が食を通じて子どもへの理解を深めることから子育て不安を軽減し、家庭の養育力向上につなげるためには、子どもと保護者を支える専門職の関わりが重要となる。そこで、保護者から回答に窮するような質問を受けたり、悩みを相談されたりした場合の専門職の対応支援方策について検討した。

1．即答できない質問への回答について

即答できない質問を受けた経験のある者の割合は、保育士51.2%、調理師・調理員48.5%に対して、管理栄養士・栄養士は栄養・食生活の専門職であるにもかかわらず、保育所65.9%、行政88.4%と高かった。これは栄養・食生活の専門職であるがゆえに、深く考えすぎたり、完璧な回答を求めすぎることが原因であると思われる。また、普段から子どもの様子を見る機会が少なく、子どもの様子を把握していないために、一般論での回答は頭に浮かんだとしても、その子どもに合った回答であるか自信がないことが理由として考えられる。

2．保育士への支援方策

即答できない質問を受けた経験のある者の割合は保育士よりも管理栄養士・栄養士が高かったが、実際に質問を受けた数としては、保育所の保育士は109名であり、管理栄養士・栄養士の26名、行政の管理栄養士・栄養士の59名よりも多かった。これは、保護者は子どもの様子をよく知っている保育士とは信頼関係が構築されており、栄養士よりも質問する機会が多いためであると推察される。

保育士は質問の回答を得るための情報源として、「職場内の人」を約7割があげていた。保育士が回答に困った質問項目で多かったのは「偏食」、「親の食生活の乱れ、食への無理解」、「少食」、「肥満児の食事」などであった。これらについては、専門知識をもつ管理栄養士・栄養士の日頃の支援があれば、即答できることが多いと思われる。しかし、管理栄養士・栄養士を未配置の保育所は公立61.0%、私立(認可園)34.6%、公設民営24.9%と、その割合にばらつきが大きいことが報告されており[2]、職場に管理栄養士・栄養士が未配置の場合には、「職場内の人」は保育士同士であることがほとんどであると推察される。また、管理栄養士・栄養士が配置されていたとしても、1、2名の場合が多い。一方、保育士は施設に多数勤務していることからも「職場内の人」は保育士同士である可能性が高い。

保育士が保護者からの質問に困らないようにするための支援方策を考える場合、本研究結果から、回答に困る具体的な質問内容は類似していること明らかにされた。そこで、管理栄養士・栄養士が、現場で回答に困るような質問をあらかじめ収集しておき、それに対して回答を用意したQ＆A集の作成が有効ではないかと考える。なお、保育士はインターネットからの情報を得ることは、管理栄養士・栄養士の約半数程度の割合であったことから、Q＆A集はインターネット上に配信するだけでは利用しづらいことが予想される。そこで、冊子にして紙媒体で現場の保育士のもとに届ける必要がある。

3．マスメディアに惑わされない食生活

近年、食生活を全体として捉えることをしないで、ある食品を体に「良い」、「悪い」と、マスメディアに惑わされて決め付ける状況がみられる。それを、高橋はフードファディズム（食べものや栄養が健康や病気へ与える影響を過大に信奉したり、評価すること）として紹介している[3]。本調査結果においても、行政の管理栄養士・栄養士は、「○○（ヨーグルト、納豆、オリーブ油、牛乳等）は体に良いか」というフードファディズムに陥った人からの質問を多数受けており、その回答に困っていた。

食べものは健康の保持・増進に大きく影響するために、食事を摂ることは生命維持に必要な物質を摂取することを究極の目的としている。しかし、食事にはそれ以外にも食べる楽しみやおいしさを感じること、コミュニケーションを円滑にすること、感謝の気持ちを育むこと、食文化の伝承を図ること、食事のマナーを身につけることなど、現在食育として取り組まれているようなたくさんの役割がある。ところがこれらを軽視し、エネルギーや栄養素ばかりに注目すると、フードファディズムに陥り

がちになると思われる。

また、「サプリメントの効用、食べ物や医薬品との組み合わせ」の質問も、行政の管理栄養士・栄養士に多数寄せられていた。これも、食事の役目を生命維持に必要な物質を摂取するという栄養機能のみに偏重して捉え、「日常の食事を疎かにしても、その分をサプリメントで補えばよいのではないか」と思う人が多い状況が反映されていると感じる。

そこで、管理栄養士・栄養士は、食の情報が氾濫する中で、断片的な食の情報に惑わされずに、食事を摂ることが栄養補給にとどまらない食育そのものであることを、一般の人たちに示していくことが重要である。

4．保護者支援の留意点

子どもの食については、保育所等でもその状況を把握し、熱心に支援がなされているが、親の食生活支援までは手がまわらないところが多いのが現状であると思われる。本研究においても、回答に困った質問項目として「親の食生活の乱れ、食への無理解」は、「子どもが食に無関心」よりも４倍も多く寄せられていた。一般に、管理栄養士・栄養士は、自分が食に関する知識や技術を豊富にもっているために、保護者について「このくらいのことは知っているであろう」、「当然やっているに違いない」などと過大評価しがちである。ところが、保護者の食生活の実態の一例をあげると、子育て中の母親のうち、「食事を菓子で済ませることがある」人は約４割、「一日の食事が３食でない」、「食事の時間が決まっていない」人はそれぞれ約２割もいることが示されている[4]。このような状況の保護者が、子どもにどれだけ望ましい食環境で、適切な食事を提供しているのか大いに疑問である。また、母親と子どもの朝食欠食状況が類似していることから[1]、保護者の好ましくない食生活の子どもへの影響が危惧される。そこで、食に無関心、無理解な保護者への支援が必要である。なお、彼らに最初から高い目標を設定すると、「それは無理」、「できない」と諦めてしまい、行動変容をおこさないことも推察される。そこで、まず、彼らの食生活の実態を把握して、その状況に合わせた目標設定をするところから支援を始め、少しずつ到達点を高めていくことがたいへん重要である。

保護者の食生活の現状を把握するためには、保育士、管理栄養士・栄養士、調理師・調理員等の専門職が、定期的な話し合いの場を設定するなど、情報交換が日常的に可能となるような環境整備も必要である。

Ⅴ．結論

保護者が食を通じて子どもへの理解を深めることから子育て不安を軽減し、家庭の養育力向上につなげるためには、子どもと保護者を支える専門職の関わりが重要となる。そこで、保護者から栄養・食生活に関して回答に窮するような質問を受けたり、悩みを相談されたりした場合の専門職の対応を支援するために質問紙調査を実施した。調査票は1826枚回収され、そのうち1801枚が有効票であった（有効回答率 98.6%）。得られた主な結果は以下のとおりである。

- 栄養・食生活に関して、即答できない質問を受けた経験のある者の割合は、保育士51.2%、調理師・調理員48.5%に対して、管理栄養士・栄養士は保育所65.9%、行政88.4%と高かった。これは栄養・食生活の専門職であるがゆえに完璧な回答を求めすぎること、普段の子どもの様子を把握しておらず、その子どもに合った回答であるか自信がないことが理由として考えられる。
- 即答できない質問の回答を調べる情報源として、管理栄養士・栄養士は「専門書」、「公的機関、企業などのネットのサイト」をそれぞれ７、８割の人が利用していた。一方、保育士はそれらの利用は４、５割に止まり、「職場内の人」が７割と多かった。
- 質問に対応するためにあったら望ましいと思うものは、全ての職種で「専門家による回答のデータベース」が一番多かった。保育士、調理師・調理員はインターネットの利用が少ないことから、紙媒体のＱ＆Ａ集等を作成すると、現場で活用しやすいと思われる。
- 回答に困った質問内容は、離乳食、特定の食品・食物の効用、食物アレルギー、親の食生活の乱れ・食への無理解、偏食、少食、肥満児の食事、卒乳・断乳・母乳へのこだわり、咀嚼・嚥下、体調不良児の食事、食育、栄養の基礎知識、子どもが食に無関心、生活リズム、その他の15項目に分類された。

食の情報が氾濫する中で、管理栄養士・栄養士や保育士ら保護者と子どもの食を支援する人たちは、断片的な食の情報に惑わされずに、食事を摂ることが栄養補給にとどまらない食育そのものであることを、一般の人たちに示していくことが重要である。

謝辞

本研究を行うにあたり、調査にご協力いただきました皆様に心より感謝申しあげます。

文献：

1） 厚生労働省：平成17年度乳幼児栄養調査報告、2006年.
2） 堤ちはる、横山徹爾、太田百合子、吉池信男、三橋扶佐子、七海美佐子：保育所給食の栄養管理に関する調査（2）保育所の「食事摂取基準」を活用した食事計画の調査研究、25－48、平成20年度こども未来財団「児童関連サービス調査研究等事業」「児童福祉施設の食事計画等の栄養管理の実態に関する調査研究」、2009年3月.
3） 高橋久仁子：フードファディズム－メディアに惑わされない食生活、中央法規出版、東京、2007年10月.

4）堤ちはる、三橋扶佐子、太田百合子、成田雅美、安藤朗子、梶忍、吉池信男、白田久美子：幼児と保護者の食生活・栄養に関する調査研究（1）、幼稚園・保育所の幼児と保護者の食生活に関する実態調査、平成22年度こども未来財団「児童関連サービス調査研究等事業」「幼児期の食の指針策定のための枠組みに関する調査研究」、9－38、2011年3月.

表1 調査対象者の職種と年齢

職種	保育士	管理栄養士・栄養士	調理師・調理員	幼稚園教諭	保健師・助産師・看護師	歯科衛生士	小・中・高等学校教諭	大学・短期大学・専門学校教員	健康・食生活等推進員	学生・大学院生	無職	その他	合計
20歳代（人数）	174	185	22	4	1	0	2	0	0	0	0	5	378
20歳代(%)	(21.2)	(27.7)	(10.7)	(14.3)	(2.1)	(0.0)	(10.5)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(9.1)	(21.0)
30歳代（人数）	191	168	41	7	11	1	1	0	0	1	3	9	415
30歳代(%)	(23.3)	(25.1)	(19.9)	(25.0)	(22.9)	(33.3)	(5.3)	(0.0)	(0.0)	(25.0)	(17.6)	(16.4)	(23.0)
40歳代（人数）	209	156	65	2	18	2	4	2	0	1	1	11	454
40歳代(%)	(25.5)	(23.3)	(31.6)	(7.1)	(37.5)	(66.7)	(21.1)	(25.0)	(0.0)	(25.0)	(5.9)	(20.0)	(25.2)
50歳代（人数）	216	142	68	14	15	0	11	4	5	1	4	24	478
50歳代(%)	(26.3)	(21.2)	(33.0)	(50.0)	(31.3)	(0.0)	(57.9)	(50.0)	(45.5)	(25.0)	(23.5)	(43.6)	(26.5)
60歳代（人数）	23	14	7	1	2	0	1	2	6	1	8	6	61
60歳代(%)	(2.8)	(2.1)	(3.4)	(3.6)	(4.2)	(0.0)	(5.3)	(25.0)	(54.5)	(25.0)	(47.1)	(10.9)	(3.4)
70歳代（人数）	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	4
70歳代(%)	(0.1)	(0.1)	(0.5)	(0.0)	(2.1)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(5.9)	(0.0)	(0.2)
無回答（人数）	7	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11
無回答(%)	(0.9)	(0.4)	(1.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.6)
合計（人数）	821	669	206	28	48	3	19	8	11	4	17	55	1801
合計(%)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)

表2 調査対象者の所属と職種

職種	保育士	管理栄養士・栄養士	調理師・調理員	幼稚園教諭	保健師・助産師・看護師	歯科衛生士	小・中・高等学校教諭	大学・短期大学・専門学校教員	健康・食生活等推進員	学生・大学院生	無職	その他	合計
保育所（人数）	807	223	200	21	13	1	0	1	0	3	0	9	1219
保育所（%）	(98.3)	(33.3)	(97.1)	(75.0)	(27.1)	(33.3)	(0.0)	(12.5)	(0.0)	(75.0)	(0.0)	(16.4)	(67.7)
行政（人数）	11	207	6	0	24	2	2	1	0	0	1	18	267
行政（%）	(1.3)	(30.9)	(2.9)	(0.0)	(50.0)	(66.7)	(10.5)	(12.5)	(0.0)	(0.0)	(5.9)	(32.7)	(14.8)
企業（人数）	0	90	3	0	0	0	0	0	0	0	0	4	93
企業(%)	(0.0)	(13.5)	(1.5)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(7.3)	(5.2)
医療施設（人数）	0	58	0	0	6	0	0	0	0	1	0	1	65
医療施設(%)	(0.0)	(8.7)	(0.0)	(0.0)	(12.5)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(25.0)	(0.0)	(1.8)	(3.6)
小・中・高等学校（人数）	2	20	0	0	0	0	18	0	0	0	0	4	42
小・中・高等学校(%)	(0.2)	(3.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(94.7)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(7.3)	(2.3)
幼稚園（人数）	11	2	0	14	0	0	0	0	0	0	0	1	18
幼稚園(%)	(1.3)	(0.3)	(0.0)	(50.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(1.8)	(1.0)
大学・短期大学・専門学校（人数）	2	13	0	0	0	0	0	7	0	1	0	0	15
大学・短期大学・専門学校(%)	(0.2)	(1.9)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(87.5)	(0.0)	(25.0)	(0.0)	(0.0)	(0.8)
特に所属していない（人数）	4	33	1	1	5	0	0	1	5	0	8	11	61
特に所属していない（%）	(0.5)	(4.9)	(0.5)	(3.6)	(10.4)	(0.0)	(0.0)	(12.5)	(45.5)	(0.0)	(47.1)	(20.0)	(3.4)
その他（人数）	5	47	1	2	2	0	0	0	6	0	8	9	75
その他(%)	(0.6)	(7.0)	(0.5)	(7.1)	(4.2)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(54.5)	(0.0)	(47.1)	(16.4)	(4.2)
合計（人数）	821	669	206	28	48	3	19	8	11	4	17	55	1801
合計(%)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)

表3 「栄養・食生活」に関して、即答できない質問を受けた経験の有無

	保育所										行政	
	保育士		管理栄養士・栄養士		調理師・調理員		その他		合計		管理栄養士・栄養士	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
はい	413	(51.2)	147	(65.9)	94	(48.5)	18	(69.2)	652	(53.3)	183	(88.4)
いいえ	329	(40.8)	60	(26.9)	84	(43.3)	3	(11.5)	472	(38.6)	14	(6.8)
無記入	65	(8.1)	16	(7.2)	16	(8.2)	5	(19.2)	100	(8.2)	10	(4.8)
合計	807	(100.0)	223	(100.0)	194	(100.0)	26	(100.0)	1224	(100.0)	207	(100.0)

表4 「栄養・食生活」に関して即答できない質問を受けた場合の回答を調べるための情報源

	保育所										行政	
	保育士		管理栄養士・栄養士		調理師・調理員		その他		合計		管理栄養士・栄養士	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
専門書	418	(51.8)	179	(80.3)	100	(51.5)	15	(57.7)	690	(56.4)	162	(78.3)
公的機関、企業などのネットのサイト	296	(36.7)	148	(66.4)	79	(40.7)	12	(46.2)	520	(42.5)	163	(78.7)
職場内(の人)	574	(71.1)	81	(36.3)	84	(43.3)	14	(53.8)	742	(60.6)	111	(53.6)
職場以外の専門職	134	(16.6)	49	(22.0)	35	(18.0)	4	(15.4)	214	(17.5)	63	(30.4)
友人・知人	119	(14.7)	42	(18.8)	20	(10.3)	4	(15.4)	181	(14.8)	21	(10.1)
健康情報雑誌	107	(13.3)	38	(17.0)	36	(18.6)	7	(26.9)	181	(14.8)	65	(31.4)
個人が開設してるネットのサイト	76	(9.4)	32	(14.3)	26	(13.4)	3	(11.5)	133	(10.9)	17	(8.2)
学会誌	5	(0.6)	16	(7.2)	4	(2.1)	0	(0.0)	24	(2.0)	37	(17.9)
家族	71	(8.8)	14	(6.3)	8	(4.1)	2	(7.7)	93	(7.6)	2	(1.0)
わからない旨を伝え終了させる	30	(3.7)	4	(1.8)	11	(5.7)	1	(3.8)	46	(3.8)	16	(7.7)
その他	12	(1.5)	6	(2.7)	4	(2.1)	1	(3.8)	22	(1.8)	6	(2.9)
合計	807	(100.0)	223	(100.0)	194	(100.0)	26	(100.0)	1224	(100.0)	207	(100.0)

表5 「栄養・食生活」に関する質問に対応するために、あったら望ましいと思うもの

	保育所										行政	
	保育士		管理栄養士・栄養士		調理師・調理員		その他		合計		管理栄養士・栄養士	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
専門家による回答のデータベース	401	(49.7)	110	(49.3)	83	(42.8)	12	(46.2)	594	(48.5)	160	(77.3)
研修会などの専門家の講義	289	(35.8)	81	(36.3)	65	(33.5)	11	(42.3)	437	(35.7)	85	(41.1)
仲間と相談し合えるネットワーク	112	(13.9)	58	(26.0)	33	(17.0)	2	(7.7)	197	(16.1)	39	(18.8)
保健センター・保健所などの情報・資料	260	(32.2)	55	(24.7)	52	(26.8)	13	(50.0)	372	(30.4)	41	(19.8)
専門書	165	(20.4)	48	(21.5)	35	(18.0)	6	(23.1)	250	(20.4)	34	(16.4)
専門書を閲覧できる場所	78	(9.7)	39	(17.5)	27	(13.9)	2	(7.7)	139	(11.4)	27	(13.0)
仲間との勉強会	90	(11.2)	38	(17.0)	31	(16.0)	1	(3.8)	155	(12.7)	33	(15.9)
相談窓口	94	(11.6)	21	(9.4)	23	(11.9)	5	(19.2)	140	(11.4)	12	(5.8)
その他	10	(1.2)	1	(0.4)	1	(0.5)	1	(3.8)	13	(1.1)	4	(1.9)
合計	807	(100.0)	223	(100.0)	194	(100.0)	26	(100.0)	1224	(100.0)	207	(100.0)

表6　回答に困った質問内容

区分		保育所			行政
職種		保育士	管理栄養士・栄養士	調理師・調理員	管理栄養士・栄養
質問記入者数／回答に困った質問を受けた人数（%）		109／413（26.4）	26／147（17.7）	18／94（19.1）	59／183（32.2）
項目（質問件数）	質問内容	職種別件数（件）			
離乳食（37件）	離乳食の進め方（開始・完了時期、固さ、形状、量、生もの、食材の扱い等）がわからない	8	5	4	3
	離乳食と母乳やミルクの割合	5	0	0	0
	フォローアップミルクを使う方が良いか	3	0	0	0
	離乳食を作っても食べない場合の対処法	2	0	0	1
	離乳完了が遅い（2歳過ぎても離乳食）子どもの食事	2	0	0	0
	離乳期の鉄、水分の補給	2	0	0	0
	離乳期のおやつの与え方	1	0	0	0
	ベビーフードの利用（長所、短所の説明）	1	0	0	0
特定の食品・食物の効用（36件）	○○（ヨーグルト、納豆、オリーブ油、牛乳等）は体に良いか	0	1	0	19
	サプリメントの効用、食べ物や医薬品との組み合わせ	1	0	0	12
	△△（肥満、冷え性、肉離れ等）に効く食べ物は何か	0	0	0	3
食物アレルギー（32件）	除去食の具体的メニュー、代替食品	12	5	7	4
	除去食による成長への影響	2	1	0	0
	子どものアレルギー予防に効く妊娠期の食事	0	0	0	1
親の食生活の乱れ、食への無理解（27件）	調理が苦手、市販品の利用多い、料理する気がない親への対処法	6	0	0	0
	親が自分と子どもの食に無関心。子どもの好物ばかり与える場合の対処法	4	3	0	1
	特定の食品（牛乳、果物等）を医師の診断なしに除去を要求する親への対処法	4	0	1	1
	保育所の給食（量、食べさせ方等）に文句を言う親への対処法	3	0	0	0
	特殊な食材の調理・加工方法	0	1	0	3
偏食（25件）	偏食（野菜、牛乳、肉、魚等を食べない）の治し方	16	2	1	0
	苦手なものを食べさせる必要があるのか	3	0	0	0
	苦手なものを食べさせようと励ますとプレッシャーがかかってよくないのでは	1	0	0	0
	菓子ばかり食べて食事を摂らない場合の対処法	1	0	0	0
	保育園の食事は食べ、自宅のは食べない、園とどこが違うのか知りたい	0	0	1	0
少食（17件）	少食、食べないときの食べさせ方	7	1	0	2
	朝食をあまり食べない場合の対処法	2	0	0	0
	少食で食事に時間がかかる場合の対処法	2	0	0	1
	保育所の給食を少ししか食べない理由	1	0	0	0
	食事に集中できずに少食の場合の対処法	1	0	0	0

表6 回答に困った質問内容（続き）

区分		保育所			行政
職種		保育士	管理栄養士・栄養士	調理師・調理員	管理栄養士・栄養
質問記入者数／回答に困った質問を受けた人数（%）		109／413 (26.4)	26／147 (17.7)	18／94 (19.1)	59／183 (32.2)
項目（質問件数）	質問内容	職種別件数（件）			
肥満児の食事（15件）	肥満児の食事の摂り方	7	1	1	0
	食欲旺盛だが、太らないための食事量の上限	4	0	0	0
	小食なのに太っている理由	2	0	0	0
卒乳、断乳、母乳へのこだわり（14件）	断乳の方法、タイミング、時期等	4	1	0	0
	母乳を与える期間	3	0	0	1
	卒乳のスムーズな迎え方	2	0	0	0
	母乳にこだわり離乳食が開始できない場合の対処法	2	0	0	1
咀嚼、嚥下（12件）	よく噛んで飲み込むことを身につけさせる方法	5	2	0	0
	吸い食べなど困った食べ方の直し方	2	1	0	0
	乳児の歯磨きの方法	1	0	0	0
	朝食に咀嚼が必要な食べ物が良いのは本当か	1	0	0	0
体調不良児の食事（10件）	下痢、便秘の時の食事	3	1	0	1
	夏バテの時の食事	2	0	0	0
	稀な病気（低身長等）の子どもの食事	1	1	0	1
食育（6件）	食事のマナー（箸の使い方、挨拶等）の子どもへの教え方がわからない	3	0	0	0
	食育とは何かの説明	2	1	0	0
栄養の基礎知識（5件）	栄養、食品の基礎事項（五大栄養素の説明等）	3	0	2	0
子どもが食に無関心（5件）	食に無関心で食べる意欲が薄い子どもへの対処法	3	1	0	1
生活リズム（4件）	生活リズムの乱れ（親子共に乱れている、大人の夜型に子どもが巻き込まれている等）の対処法	2	0	1	1
その他（5件）	障害児の食事介助法	1	0	0	1
	食品添加物の害について	1	0	0	0
	食品に含まれる酵素量	0	0	0	1
	妊娠糖尿病	0	0	0	1

「栄養・食生活」に関する支援のアンケート調査

「栄養・食生活」に関する質問に対応する専門職の方々を支援するための研究が、日本子ども家庭総合研究所において行われます。この調査は、その研究を進めるにあたり、平素、食生活の支援に取り組んだり、食生活の支援に関心をもっている方のご意見を広くお聞きするためのものです。

この調査は任意・無記名で実施し、得られた情報は本研究のみに使用すること、回答者に不利益が被らないことをお約束致します。ご多用のところ誠に恐縮ですが、調査へのご協力をお願い申し上げます。なお、アンケートのご記入・ご提出をもって、本調査への同意が得られたものと判断させていただきます。

1. 年齢：1. 20歳代　2. 30歳代　3. 40歳代　4. 50歳代　5. 60歳代　6. 70歳以上

2. 所属（複数回答可）：1. 行政　2. 医療施設　3. 保育所　4. 幼稚園
5. 小・中・高等学校　6. 大学・短期大学・専門学校　7. 企業
8. 特に所属していない　9. その他（　　）

3. 職業（複数回答可）：1. 管理栄養士　2. 栄養士　3. 保育士　4. 幼稚園教諭　5. 調理師
6. 調理員　7. 保健師・助産師・看護師　8. 歯科衛生士
9 小・中・高等学校教諭　10. 大学・短期大学・専門学校教員
11. 健康・食生活等推進員　12. 学生・大学院生　13. 無職
14. その他（　　）

4. 「栄養・食生活」に関して、即答できない質問を受けたことがありますか：　1. ある　2. ない

5. あなたは「栄養・食生活」に関して即答できない質問を受けた場合に、回答を調べるための情報をどこから得ますか（あてはまるものすべて○）
1. 専門書　2. 学会誌　3. 健康情報雑誌　4. 公的機関、企業などのインターネットのサイト
5. 個人が開設しているインターネットのサイト（ブログなど）　6. 職場内の人　7. 職場以外の専門職
8. 友人・知人　9. 家族　10. 即答が難しければ「わからない」旨を伝え、そこで終了させる
11. その他（　　）

6. あなたが「栄養・食生活」に関する質問に対応するために、あったら望ましいと思うものは何ですか（2つ選んで○）
1. 専門家による回答のデータベース　2. 専門書　3. 保健センター・保健所などの情報・資料
4. 研修会などの専門家の講義　5. 仲間との勉強会　6. 仲間と相談し合えるネットワーク
7. 専門書を閲覧できる場所　8. 相談窓口
9. その他（　　）

7. 「栄養・食生活」に関する質問で、回答に困った質問をご記入下さい

アンケート調査にご協力ありがとうございました。

（社福）恩賜財団母子愛育会　日本子ども家庭総合研究所　担当　堤ちはる（電話：03-3473-8344）